

# ながただ 1. 津田永忠とは

## ◆岡山で生まれ育った津田永忠

- ・津田永忠は、寛永17年(1640)に岡山城下弓之町で生まれた岡山藩政確立期の中心人物です。
- ・当時の藩主池田光政に見いだされ、その子綱政の代には藩の地方行財政のトップともいえる「郡代」として、百間川・沖新田・後樂園など大がかりな事業を指揮するなど、一生にわたり岡山藩政に深く関わりました。



沖田神社の津田永忠座像

## ◆今も現存する永忠の功績

- ・永忠の功績の中で、多くの歴史的遺構が現在もその姿をとどめ、今なお機能しているものもあります。その築造技術は現代の技術に照らし合わせても驚くべき仕組みを備えています。採択には至りませんでした。その中から14件が文化庁に対して世界文化遺産暫定リスト記載候補として提案されました。
- ・ここで紹介する史跡や遺構などはその中の主要なものですが、皆さんがそれらに触れることをきっかけにして、永忠をはじめ先人達の英知や功績への理解がより深くなればと考えています。

## ■功績の全体マップ



## ■津田永忠 略年譜

西暦	年齢	主な出来事
1640	1	岡山城下弓之町に誕生する
1653	14	側児小姓となる
1660	21	元服して重二郎永忠と名乗る
1664	25	評定所列座を命じられる
1667	28	池田家墓所(和意谷)造営を命じられる
1668	29	岡山藩藩学の新築を命じられる
1672	33	和意谷墓所・閑谷学校・井田・手習所・社倉米の専管を命じられる
1675	36	凶作により手習所を藩民の救済施設に充てる
1676	37	藩財政の再建案を提出する
1679	40	倉田三新田の干拓に着手、新田・倉安川を完成
1680	41	再び評定所列座を命じられ岡山城下に移住する
1682	43	郡代に命じられる。光政墓所の造営に着手する
1684	45	幸島新田の干拓に着手、完成する
1686	47	百間川の築造が開始される
1687	48	岡山後樂園造営が開始される
1692	53	沖新田の干拓に着手する
1695	56	牛窓一文字波止を築く
1696	57	吉備津彦神社の造営奉行を勤める
1698	59	大多府漁港元禄防波堤を築く 閑谷学校講堂の大改修に着手する
1699	60	池田家墓所(曹源寺)が完成する
1701	62	閑谷学校講堂が落成する
1703	64	郡代を解任される
1704	65	隠居し、閑谷に移住する
1707	68	岡山城下にて死去し奴久谷墓所に葬られる